

## 研究に関する情報

2019年10月7日

当院では、以下の研究を実施しております。

「パーキンソン病患者における医療介護関連肺炎（NHCAP）の発症要因の検討」  
この研究に関するお問合せなどがございましたら、下記の「お問合せ先」へご照会ください。

研究課題名
パーキンソン病患者における医療介護関連肺炎（NHCAP）の発症要因の検討
研究の目的
パーキンソン病は日本の60歳以上では100人に約1人が発症しており、人口の高齢化に伴い患者数は増加しています。またパーキンソン病患者の死亡率やQuality of Life (QOL)に影響を与える臨床的問題として誤嚥が知られています。高齢者が発症する肺炎の9割以上は誤嚥性肺炎であり、パーキンソン病患者はパーキンソン病を有しない患者と比べて誤嚥性肺炎の発症率が約10倍高いとも報告されています。以上のことから、パーキンソン病患者における誤嚥性肺炎への予防的介入や嚥下障害への早期介入が重要ですが、パーキンソン病患者の2割程度は誤嚥の自覚に乏しく、パーキンソン病の進行が初期段階であっても重度な誤嚥が発生する可能性があります。自覚症状や進行度からパーキンソン病患者の肺炎発症を予測することは、現在は困難です。またパーキンソン病患者において日常生活活動動作（Activity of Daily Living (ADL)）能力や栄養摂取状況、嚥下機能と肺炎の発生に関する研究は見受けられません。そこで本研究では、パーキンソン病患者を後方視的に追跡し、そのうち肺炎を発症した患者と発症しなかった患者間のADL能力、栄養状態等を比較することで、臨床的特徴を明らかにすることを目的としています。
研究の方法
後方視的コホート研究であり、診療カルテやリハビリテーションシステムから①年齢②性別③診断名④Functional Independence Measure (FIM) ⑤The Mann assessment of swallowing ability (MASA) ⑥栄養状態 (Controlling Nutritional Status :CONUT) (血清アルブミン値、総コレステロール値、末梢リンパ球数) ⑦在院日数 ⑧肺炎発症日 ⑨Hoehn&Yahr 分類 (HY 分類) ⑩unified Parkinson's disease rating scale (UPDRS) ⑪薬歴を収集し、これらのデータから肺炎発症要因を抽出し、そのカットオフ値を算出します。
研究実施期間
2019/10/3～2020/3/31
個人情報の取り扱い
個人情報を消去することで匿名化を前提としている。データ処理に当たっては、外部接続を遮断したコンピューターにて実施。また検査結果の入力等を実施するコンピューターは、外部接続を遮断した神戸大学大学院保健学研究科の個人情報管理者の研究室に設置する専用のものを用い、データ複製はしない。
お問合せ先
札幌西円山病院 リハビリテーション部 三谷 有司 電話：011-642-4121（内線 ） FAX：011-642-4291